

令和3年度第1回地域包括ケア事例研究会

～認知症地域支援推進員の活動のさらなる向上に向けて～

アンケート集計結果

日程：令和4年2月17日(木) 13時30分～16時30分

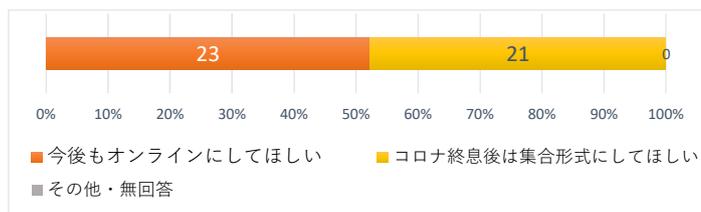
開催方法：オンライン(Zoom)

参加人数：54名

アンケート回収率：81%

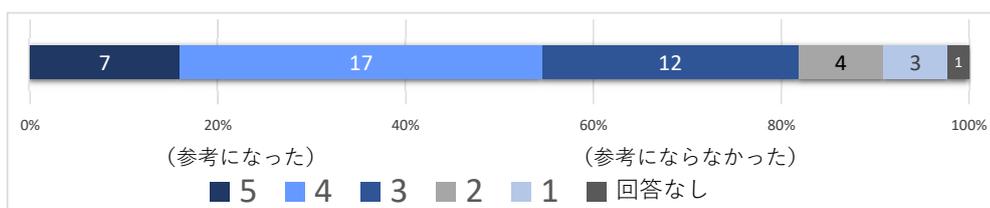
〇開催方法について

1. 今後の開催方法について伺います



〇本日の事例研究会について、ご意見をお聞かせ下さい

2. 行政説明について、5段階の中からお選びください



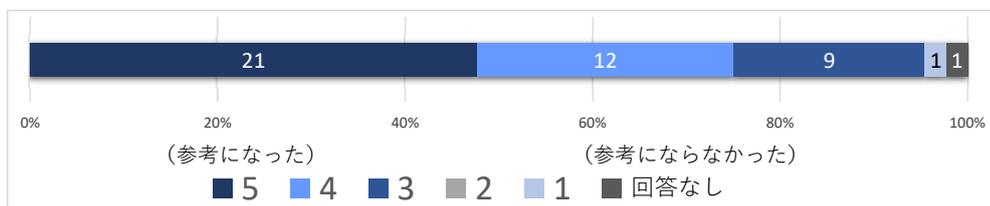
※自由記述 37本

〇国の施策などの確認ができました。普段仕事を行っている中で改めてそれを見直すということがなかなかできないため、お話を聞けて良かったです。

〇認知症施策の動向について、特に認知症の人と家族への一体的支援の推進(R4年度新規)について理解を深める事ができた。

〇今回の研修で認知症施策について、より詳しく知ることができました。

3. 講義について、5段階の中からお選びください



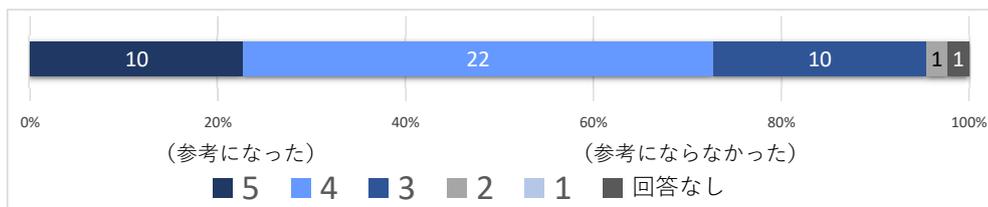
※自由記述 35本

〇本人視点の大切さについての話が参考になりました。困りごとをどう解決していくかを考えていると、忘れてしまいがちですが忘れてはいけないなと改めて感じました。

〇永田講師の講義内容は、認知症当事者や家族のためだけでなく、推進員の活動の困難さも汲み取ったうえでの事例紹介で、事例と同じように行うことは難しくても、現在自分がしている地道な個別支援の中で、何かできることはないかと思わせてくださるものでした。

〇事例も含めてご講義いただき、「いまあるものを活用する」「自分の地域をよく見る」という内容をお話しいただき、すぐに取り組めることを教えていただき、良かったです。

4. グループワークによる意見交換は、今後、貴職の業務に活用できる内容でしたか



※自由記述 40本

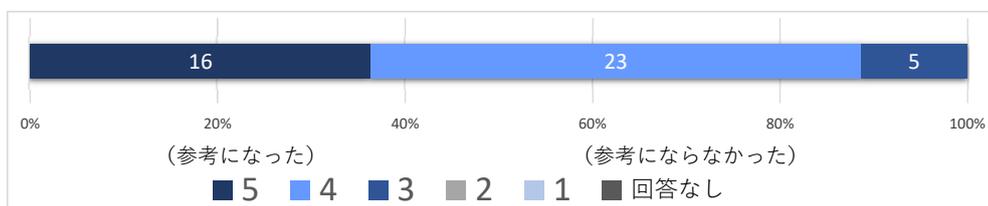
○医師会との連携、本人発信のテーマで検討しましたが、課題と感じるところは他の自治体の方とも共通していると感じました。その中で、自地域で取組めそうなところから「まずはやってみる」ことが大切だと感じました。

○チームオレンジについて他の市町村の取り組みを聞くことができました。成果は出ていないけれど、確実に動き始めているのだと感じて刺激を受けました。見識が深まることで業務に活用できると思います。

○地域が違うとは言え、試行錯誤しながら頑張っている方々の日々の取組が知れた。地域が離れていたことで、自由に話すことが出来たと思う。

○多くの自治体が当市と同じような課題に直面していること、大綱施策の進捗も同様であることを確認でき、ある意味安心しました。ちょっとしたヒントや事業推進のエネルギーをもらえた気がします。

5. 本日の事例研究会は参考になりましたか



※自由記述 33本

○現場で活動されている方々の生の声を聴くことができとても勉強になった。また当市の課題や活動のつまづきに関してアドバイスを頂くことができとても参考になった。

○国の動向や推進員へ望む内容について学ぶことができた。一人であれこれ悩むよりは色々な人へ相談し、地域へアンテナをはって情報を得ること、足を運ぶことが大切だと改めて感じました。

○講義もグループワークも参考になりました。私は地域包括の職員と推進員が兼務になっていますので、推進としての取り組みがあいまいになってしまいますが、こういった研修を通じ推進員として自分のできることを考えていきたいと感じます。

○認知症関連の事業がたくさんある中、今後の取り組みについて、やるべきことの整理、焦点化の方法についてイメージを持つことができた。

○その他

6. 本日の事例研究会の感想、今後取り扱ってほしいテーマについてのご意見等をご自由にご記入ください

※自由記述 29本

○チームオレンジの各地の活動事例(好事例)の共有が欲しい。また本人ミーティングも本市ではまだまだできていないため、そのようなテーマの事例研究会もあるとよい。

○当市福祉部門は民間との連携が進んでいないため、連携事例の紹介やマッチングの機会などがあるとありがたい。以前、経済産業省も参画したセミナーに参加した記憶があるが、異なる視点が得られ大変有意義だったため。

○都心部の方が在宅医療が進んでいると思われるのですが、在宅医療の先進地域の現状を知りたいです。認知症が進むと、内服管理はもちろん、受診もできなくなり、基礎疾患も悪化してしまうからです。